

各 位

会 社 名 戸田建設株式会社  
 代表者名 代表取締役社長 井上 舜三  
 (コード：1860、東証・大証各第一部)  
 問合せ先 執行役員総務部長 大友 敏弘  
 (TEL：03 - 3535 - 1357)

## 戸田建設グループ「中期経営計画」の策定について

当社グループは、この度、平成 24 年度から平成 26 年度の 3 カ年を対象とする「中期経営計画」を策定いたしましたのでお知らせいたします。

本計画においては「工事収益の改善」と「グループ一体となった成長戦略」を柱に据え、特に前者の「工事収益の改善」を目下の最優先課題との認識のもと、価格競争の克服に向けて、衆知を集めて対処してまいります。

あわせて今般、平成 29 年度までの 6 カ年を構想期間とする「中長期経営ビジョン（別紙）」を策定いたしました。本計画はその最初のステップとして位置付け、成長機会の創出にグループをあげて取り組んでまいります。

### 1．基本方針

早期の収益改善を果たすとともに、グループ一体となった事業運営により新たな価値創造を目指す。

### 2．業績目標

	平成 26 年度	中長期目標
連結売上高	5,000 億円 程度	
営業利益率	2% 以上	3% 以上

「中長期目標」とは中長期経営ビジョンにおける成長目標となります。なお、以下の記述においても同様の表現を使用いたします。

### 3. 重点施策

#### [ 1 ] 工事収益の改善

完成工事利益率（単体）7%確保を目標に、基盤事業の再生に向けて全プロセスを根本から見直していく。

- ・ 受注段階より、営業・工事一体となった案件精査、リスク管理を徹底する。
- ・ 技術提案、総合評価方式への対応を強化し、重点分野（工事種類）の深化を図る。

重点分野 建築：医療・福祉施設、生産施設、事務所、教育施設  
土木：都市インフラ（道路、鉄道、上・下水道）

- ・ 原価管理、購買機能の合理化とともに、施工段階における不具合、手戻り、無駄ゼロを実践する。
- ・ 一般管理費、営業外収支を含めたトータルコストを削減する。
- ・ 東日本大震災の復興需要への取り組みを強化する。

#### [ 2 ] グループ一体となった成長戦略

ストック社会、インフラの再整備、防災、グローバル化、地球環境問題などの社会的課題の解決に向けて、中長期経営ビジョンの実現に取り組んでいく。

##### （1）業務プロセスの変革

- ・ 「単品・売り切り」からの転換を図り、上流（エンジニアリング・設計）から下流（維持管理）工程に至る一貫したビジネスモデルを構築する。
- ・ 協力会社との関係を密にし、優良技能者の囲い込みを図る。
- ・ グループ外の企業や団体との資本・業務提携を推進する。

##### （2）戦略的育成・強化分野

海外 [ 平成 26 年度目標：海外売上高 350 億円、中長期目標：同 500 億円 ]

- ・ 新興国（ブラジル、東南アジア、西アフリカ等）を中心に事業を展開し、新たな営業拠点の設置、更なる現地化を推進する。

投資事業[平成26年度目標:不動産等利益40億円、中長期目標:同50億円]

- ・ 保有資産の有用活用とともに、厳格な判断基準のもと収益不動産への新規投資(毎期50億円程度)を実施する。また、PFI・PPP(官民連携)への参加に取り組む。

環境・エネルギー

- ・ 革新的なエネルギー・ソリューションの開発、浮体式洋上風力発電など再生可能エネルギーの事業化に向けて取り組む。

### (3) 経営基盤の強化

- ・ コンプライアンス、品質管理、環境保全、安全衛生、BCP(事業継続計画)への取り組みを強化する。
- ・ 技術の伝承とともに、グローバル人材の育成、確保に向けた教育体系を整備する。
- ・ グループ一体となった経営体制を構築し、相乗効果の最大化を図る。

## 4. 株主還元等

本計画の成果に関しましては、広く利益の還元を行い、関係各位の満足と信頼の確保に努めてまいります。また、継続的な安定配当を基本に、利益成長にあわせた配当水準の向上を検討してまいります。

本内容に関するプレゼンテーション資料(説明資料)は、5月16日(水)に当社ホームページに掲載する予定です。

以上

平成 24 年 5 月 14 日

## 戸田建設グループ 中長期経営ビジョン

～ 新しい こたえをつくる。～

戸田建設グループは、お客さまとの価値供創を推進し、信頼関係を深めていくことで、持続的な成長を目指していきます。

### 1. 目指す姿

---

当社グループ各社は「新しい こたえをつくる。」会社として、「建設」という事業に広がりや深みを創出していきます。また、これを通じて、連結営業利益率を3%以上に向上させます。

### 2. 3つのチャレンジ

---

具体的な事業の方向性として、以下の3点を実践していきます。

#### (1) 施設まるごと

- ・ 施設の企画提案（上流）から維持管理（下流）までを一貫して担うことで、お客さまへの継続的な価値提供を実施する。

#### (2) 課題まるごと

- ・ グローバル化、環境配慮を軸に、ものづくりと仕組みづくりの両面から、お客さまの経営課題の解決に貢献する。

#### (3) 事業まるごと

- ・ 健全な財務体質を維持し、さらに有効活用（不動産投資、事業出資）することで、当社グループが事業者となって新しい価値をつくり出していく。

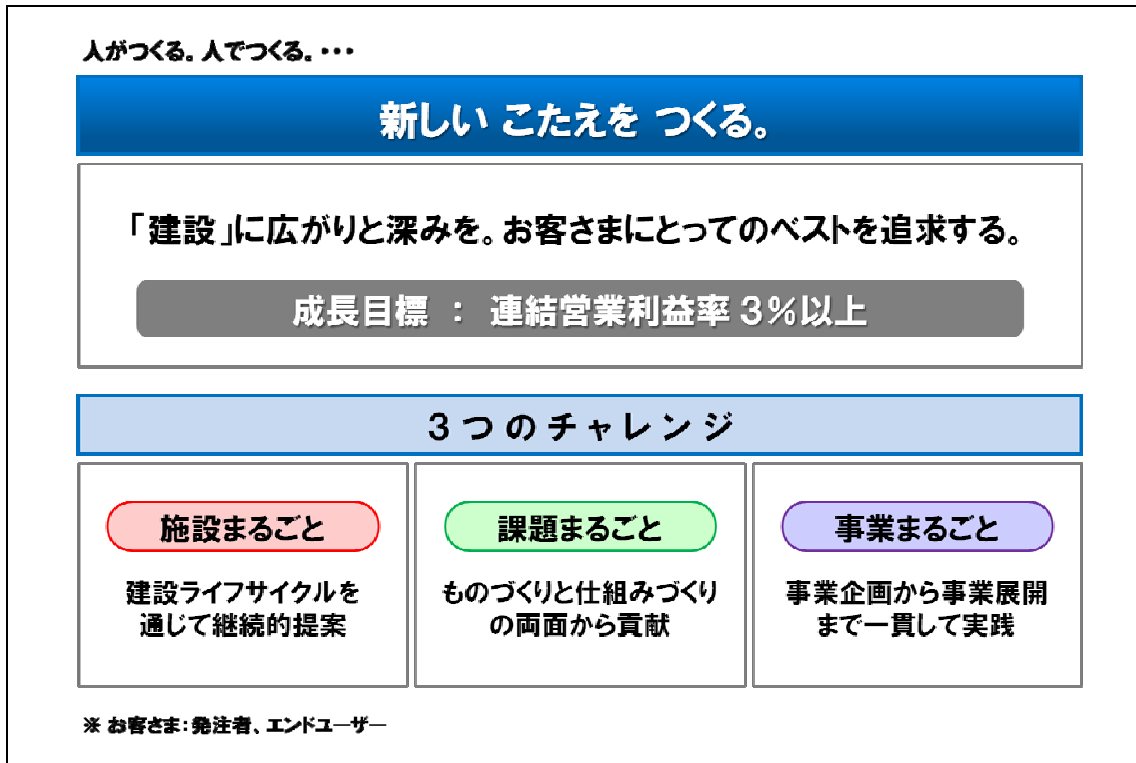
### 3. 構想期間

---

平成 29 年度（6 年後）には、数多くのプロジェクトにおいて「まるごと」を実践し、収益を上げている状態を確立します。

以 上

【参考1】目指す姿と3つのチャレンジ



【参考2】「まるごと」を実践したプロジェクトの姿（例：病院）

